

決算審査特別委員会 代表質疑通告書

令和6年9月27日

委員氏名 柏野 大介

決算審査特別委員長 川原 光男 様

一問一答 (有)・無)

ページ 3～1

大項目	1 市民の健康と子ども支援の体制強化
小項目	質問の要旨
(1)市民の運動機 会の確保	<p>健康づくりのためには子どもから高齢者まで、身近で運動に親しめる環境整備が不可欠です。令和5年度においては、市内プール3か所の休止と駒場体育館の閉鎖により活動の場に制約があったと推測されますが、市民の運動機会を確保するための取組と課題を伺います。</p> <p>また、屋内・屋外運動施設の使用料については、多くの市民に利用してもらうための料金設定が重要だと考えます。市民スキー場のリフトで試行的に導入してきた割引料金が利用者拡大に寄与したことを踏まえ、取組の成果と課題を伺います。</p>
(2)就学前の子 ども支援の指導・ 監査	<p>近年、特別な支援を必要とする子どもの増加は顕著です。市としては、未就学児に対しても、障害児通所支援事業や保育園・子ども園への特別支援教育に対する補助などを通じた支援に取り組んでいるところですが、支援の主体である事業者が、質と量において適切な支援を提供しているのかを、市としてチェックすることが重要だと考えます。事業者への指導・監査体制の現状と課題について伺います。</p>
(3)妊産婦通院 助成の拡大	<p>妊産婦健康診査通院支援事業は、市内に分娩できる医療機関がないため、市外の医療機関または助産所で妊産婦健康診査を受診する妊産婦に対し、その通院にかかる交通費の一部を助成する制度です。令和5年度の実績としては、通院助成制度を使って通院した医療機関の所在地については把握していないとのことですが、出産をした医療機関については約6割が札幌市、約3割が千歳市、約1割がその他であるとの答弁がありました。こうした状況を踏まえ、助成額の妥当性を検証するべきだと考えます。この事業の効果と課題について伺います。</p>

	氏名 柏野 大介	ページ 3～2
大項目	2 協働のまちづくりの進化・発展	
小項目	質問の要旨	
(1) 広報・広聴手段の強化・拡充	<p>パブリックコメントの制度改正など、市の政策形成に、市民意見を反映させる取組が進んだことは評価できます。一方で、市民から広く意見を聴取する取組は十分とは言えません。ウェブサイトやSNS、インターネットを通じた情報発信の取組から見えた課題認識と、これらを双方向での広聴ツールとして活用していくことについての所見を伺います。</p>	
(2) 市民の多様な活動に資する公共施設使用料のあり方	<p>市民が、市民活動や文化活動、教育活動など、個人や団体に活動するための施設は、さまざまなものがありますが、施設を所管する部署や、設置時の考え方により、利用の時間区分や料金には大きな差が生じています。</p> <p>市民の利用形態の変化やNPO法（特定非営利活動促進法）の制定などの社会の変化を考慮したとき、公共施設についても、市民にとって利用しやすい仕組みに変えていかなければなりません。</p> <p>施設によってばらつきのある利用時間区分を柔軟にするとともに、非営利活動に対する考え方を統一していくことが必要だと思いますが、現状の課題と見直しに向けた検討について伺います。</p>	

	氏名 柏野 大介	ページ 3～3
大項目	3 持続可能な財政基盤の確立	
小項目	質問の要旨	
(1) 未来投資の視点に立った財政運営	<p>市では、平成28年の公共施設総合管理計画策定以降、将来の人口減少を見据え、公共施設の総量抑制などを進めてきました。持続可能な自治体経営としていくためには、床面積の削減にとどまらず、施設運営にかかる収支改善なども合わせて進めていく必要があります。</p> <p>令和5年度決算を踏まえ、花の拠点の指定管理者制度導入など、公共施設運営に伴う収支の変化がどのように財政運営に影響してきたのかについて伺います。</p>	
(2) ごみ処理経費の抑制と排出者負担原則の徹底	<p>令和5年度のごみ排出量などを見ると、家庭系の1人1日あたりごみ排出量は、過去最少となっており、長年にわたる減量への取組が市民理解のもとに進んできたものと高く評価しています。一方で、事業系廃棄物については、中小事業者支援の名の下に、一律に公費による負担が伴う料金設定となっており、事業系ごみの削減への動機づけは十分とは言えません。</p> <p>事業系ごみ削減に向けた令和5年度取組と排出者負担の原則に基づく料金設定に向けた課題、ごみ全体の経費抑制を見据えた課題について伺います。</p>	
(3) 墓園事業特別会計	<p>令和5年度墓園事業特別会計は、ほぼ予算通りでしたが、使用料が予算を下回るなど、需要動向には変化が見られず、令和7年にも墓園基金が不足する見込みは目前に迫っています。将来的な墓園事業特別会計のあり方についての検討内容と、今後の見通しについて伺います。</p>	